

ホームページ <http://www.nihonkanpoukyokai.com/>

E-mail [j.kampo@jeans.ocn.ne.jp](mailto:j.kampo@jeans.ocn.ne.jp)

# 日本漢方協会通信-①

2022年 2月

今号より会員の方の記事を掲載してまいります。

## 日本漢方協会講義を聴講して(2022年1月16日分)

会員 大塚信子

日本漢方協会講義を聴講して、心に残った事をまとめてみましたので報告します。

午前中の基礎講座「四診」、「葛根・麻黄」はそれぞれユニークな内容の講義で楽しく拝聴させていただきました。

午後からの古典講座「類聚方広義」は、秋葉先生のご講義でしたが大変充実した内容でした。

皇漢医学から今日に至る流れの中で、「類聚方広義」は重要な位置を占めています。今日とは処方内容が異なるところもありますが皇漢医学叢書には230処方が掲載されているので、それだけ汎用されてきた重要処方が多いということでした。

秋葉先生は「類聚方広義」の本題に入る前に古方派の江戸時代から明治、大正、昭和にかけて湯本求真、奥田謙蔵、藤平健から秋葉先生始め諸先生方に受け継がれている流れをお話して下さいました。もちろん後世派や折衷派の流れもあると思いますが、日本漢方協会でも古方漢方を学ぶものとしては、正統派の漢方を勉強しているのだということを実感し大変嬉しく感じました。素晴らしいお話を聞くことができました。

「類聚方広義」は吉益東洞の「方極」、「類聚方」いずれも傷寒論、金匱要略の必要な処方を解説したものに尾台榕洞が頭注を記し実践に役立つようにしたもので、

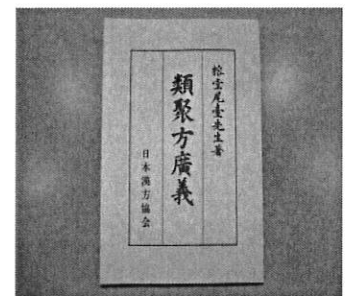
秋葉先生は麻黄湯、甘草麻黄湯、麻黄附子細辛湯、麻黄杏仁甘草石膏湯

(麻杏甘石湯)、麻黄杏仁薏苡甘草湯(麻杏苡甘湯)、

小青竜湯について「方極」の文や「傷寒論」「金匱要略」の

条文の位置まで解説していただき、更に読みづらかった頭注を

読んでいただき大変勉強になりました。



# 日本漢方協会通信 - ②

2022年 2月

総合講座

生薬解説 柴胡・半夏



生薬って、難しいよね。古典を読んで、薬効、薬理・・・勉強すること沢山あってイマイチつかめないんだよね。

まずは生薬のプロフィールを知り、後は私達の体が、どうなっている時どうしてくれるのか、人の体の不調を中心に考えると分かり易いと思います。

体の不調？柴胡といえば、胸脇苦満でしょう！柴胡の体の不調は胸脇苦満として現れるって言われてるけど…。

お見事！では胸脇苦満の腹診はどのように行いますか？実は胸脇苦満の腹診法は一つではないんです。

へい～??

柴胡では、胸脇苦満の腹診と胸脇苦満はどのような体の不調として現れるのか、現代医学的に考察してみたいと思います。さらに代表的な柴胡剤の使い方のポイントをお話したいと思います。

講座を聴けば、相談者に家で胸脇苦満があるかどうか試してもらう事できるかもね。柴胡の証もわかるね。では、半夏は？

半夏も同じです。私達の体が、どうなっている時どうしてくれるのか、イメージしてみてください。

半夏といえば、気持ち悪い時、生姜と一緒に吐き気を抑えてくれる。他には半夏厚朴湯！喉の異物感！それから～咳！

お見事！では吐き気といえば五苓散、五苓散との鑑別は？

え～ト…??

うらへつづく

講座では、体の中の何処で、何が、どうなっている時に、その生薬はどうしてくれるのか。古典を基に解説してみたいと思います。さらに柴胡では、胸脇苦満を現代医学的に解説致します。また、傷寒金匱では小柴胡湯を煎じる際に「滓を去り再び煎じる」とあります。再煎の意味に迫ってみたいと思います。

方剤については、柴胡では、代表6処方の使い分け、長びく風邪に用いる時の処方鑑別、半夏では、嘔吐に用いる時の処方鑑別、何故乾燥した咳を治す代表処方である麦門冬湯に燥湿化痰薬の半夏が配合されているのか等、お話する予定です。

## 症例（自験例）40歳代 女性

**【主訴】 風邪、特に鼻水**

**【現病歴】** 3~4日前から倦怠感、咳、鼻水、いつもなら寒気や喉の痛みから始まり、桂枝湯又は麻黄附子細辛湯で一発で治る。しかし、今回はいつものように治らない。連日の無理が原因か？次第に咳や鼻水といった症状がでてきた。

**【併用薬】 無し。**

**【来局時所見】**

〈自覚症状〉倦怠感、咳、鼻水、

〈排便排尿状況〉問題なし。

〈他覚所見〉身長160cm、体重40kg、血圧90/60、体温不明

舌候：胖大、齒痕+、淡白・厚い白膩苔があり所々剥離。

**【経過】** 桂枝加厚朴杏仁湯を飲んだ。服用1日目で咳は止まった。

しかし体のだるさと鼻水が治らない。

食欲はあったが、食べ物が美味しくない。

少陽病期に入ったと考え柴胡桂枝湯を服用した。

異常にまずかった。

そこである漢方エキス製剤を服用した。

1日目、変化なし、味はまずくなかったので継続。

2日目、午後になって急に鼻がすっきりしてきた。

効果を実感した。倦怠感も無くなり、またいつものとおり頑張れる気がした。

★ある漢方薬エキス製剤とは、何でしょうか？

講座にて、お話し致します。

担当：八木多佳子